

第4回京都山城便教会

平成27年8月22日（土）

今回は私の勤務校のすぐ横にある長岡市立長岡第三中学校で行わせていただきました。会場の段取りなどをしていただいた長島先生は、他の勉強会で共に学んだ仲で、またバスケットボール部の指導でも切磋琢磨した同志でもあります。そんな長島先生の学校で、第4回便教会を行うことができ、嬉しく思っております。

今回は、夏休みの土曜日ということで、部活動に精を出される先生や採用試験に向けて取り組まれている先生方が多く、参加は4名でしたが、それでも意義のある時間を過ごすことが出来ました。

最初に、日本を美しくする会のDVD「掃除の道（哲学編）」を視聴致しました。何度も見た映像なのですが、今回も新鮮な気持ちとなり、腰骨が立ちました。今回は「自分が先頭に立つのではなく、先頭に立てる人をどれだけ育てるか」というフレーズが響きました。きっと今の自分の現状を映し出しているのでしょう。自分で全てをやろうとして、「まわりは何もやってくれない」と思ってしまう被害者意識の自分に警笛を鳴らしていただいたのだと思います。開始早々、深い学びをいただきました。

場所をトイレに移し、次はトイレ掃除の実践。実際にやる前に、今回は次のような話をさせていただきました。

<気づきと知恵>

トイレ掃除のやり方はいくらでもあります。でも、鍵山先生は、色々な試行錯誤の上で、必要なものを使いやすくするために、このような道具を使い、配列されています。ただ単に、適当に並べてあるわけではありません。本日、掃除の実践を行います。掃除のやり方を学ぶのではなく、どのようにすればきれいに掃除できるかを考えながらやりましょう。大切なのは、何に気づき、いかに工夫するかです。我々は教師ですので、子ども達にノウハウを教えるのではなく、どのようにすれば改善できるかを考えられる生徒を育てていく必要があります。そのためにも、自分自身が気づき、工夫することを大切にしましょう。

そうして始まったトイレ掃除の実践。先生方は、自分の前にある便器と向き合い、早速実践を始められました。少し勇気の必要な便器もありましたが、そこにも一步を踏み出し、覚悟の左手を差し出しました。「一度出してしまおうと、もう怖くない」。そういう感覚も改めて感じさせていただきました。結局、頭で考える自分がいるわけで、体で動いてしまうと何ともないという至極大切なことを学ばせていただきました。

<Before>



<After>



トイレ掃除を行う中、吹奏楽部の生徒が練習をしており、そこから聞こえてくる懐かしのメロディが我々を応援してくれているように感じ取れました。4人ともがそういう言葉を口にし、身を低くして懸命に励んでいると自然とまわりに起こる出来事が自分を後押ししてくれえるように感じ、感謝の気持ちを持てるのだということも体感させていただきました。ここでも鍵山先生の言葉「人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる。」という言葉が思い出されました。

掃除が終わってからは、4人で反省会・交流会を行いました。



- ・以前にこだわってやっていたことが、今は年数を重ねて「これぐらいでもいいか」と甘さを見せる部分が多くなっている。トイレ掃除をして、小さなことにこだわることの大切を感じることができた。
- ・以前に学んだことで当時は分からなかったことでも、最近はその意味が少しずつわかるようになり、さらに不思議なことに、それらの学びが色々なところでつながっていることに驚いている。
- ・こういったことをいかに継続させるかが大事。なぜ、このようなことをしているのかという気付きを日々の実践で確認することが大事。これからも続けたいと思う。
- ・生徒に伝えていることが上辺だけになってしまい、自分では伝えてあるつもりでも、実は生徒に伝わっていないことが多い。生徒にも、なぜそれが大切なのかを理解させられるように、取り組んでいきたい。



参加された4人の先生方は、みなクラブ顧問をお持ちで、夏休みに取り組んできたこと、夏休みにもっとこうしておけばよかったと思うこと、自分のこだわり、過去の経験などを語り合い、盛り上がっていました。

第4回を終えて、京都山城便教会の意味をもう一度考えました。この京都・山城の地をお借りして、私とつながりのある人同士が出会い、またそのつながりで新たな出会いがあり、そうやってみんながつながっていく。そういう人の中から、また新たに先頭に立つ人が生まれてくる。そのためにも、3ヶ月に1回、この会を続けていくことに意味があるということに辿り着きました。今後もこの意味を大切にしながら継続させていきたいと思えます。ありがとうございます。

(小笹 大道)

